



のびのびとした自然に囲まれ
人との絆の深さを感じる町

東北町で育ち、東北町で知り合った大坂さんご夫妻。結婚12年目、3人の子どもにも恵まれ

幸せな生活を送るご夫婦に東北町の魅力について聞くと「(真治さん)「こちゃこちゃした都会は嫌でした。こっちは土地も広いし、地域の住民とのつながりも深くいいなと思います」。「(歩美さん)若い頃は都会に出たいなって思った時期もありましたけど、やっぱりこっちは落ち着きますよね。真治さんは建設業、歩美さんは保育士として忙しい日々を送っているが(歩美さん)両親に子どもを見てもらえるし、子ども会も充実して

いるので地域ぐるみで子どもの面倒を見てもらえている感じがす」。のびのびとした環境と、人と人との結びつきの強いコミュニティは、子育てをする大きな魅力になっている。

手厚い子どもへの支援制度
安心して子育てできる環境

東北町には「赤ちゃん祝金」という条例がある。出生児の健やかな成長を目的としたもので、第2子の誕生から給付される。給付金額は第2子で25万円、第3子以降は35万円となっている。「(真治さん)町の祝金第一号でいただいたのが長女の凜心凛心でした。何かとお金のかかる時期なので、大変助かりました」。その他にも町では子どもの医療費を負担する制度も。「(歩美さん)子どもは高校生まで医療費がかからないんです。それだけでもだいぶ違いますよね。風邪で病院にかかったり、仮に入院するようなことがあっても無料なので」。こうした手厚い支援は、東北町の子育て世代にとって非常に心強い味方になっている。

人の絆がある町。
子どもも支援も魅力



まだまだ甘えたい盛りの二男・奮生くん。上のお兄ちゃんとお姉ちゃんがつわり面倒を見てもらう

元氣いっぱいしゃべり者の長女・凜心ちゃん。取材に対しても大人顔負けの受け答えをしてくれた



子育て世代

大坂さん一家

(真治さん・歩美さん・聖弥くん・凜心ちゃん・奮生くん)

大坂真治さん/1980年、東北町生まれ。県内の建設会社に勤務。地元でめぐりあった歩美さんと結婚し、今では休日はお子さんとしっかり遊ぶ3児のパパ。「宝湖館という施設には温水プールがあって年中入れます。子どもと遊べる環境が整っているのも町の魅力ですね」。



このほどマイホームが完成した大坂さん一家。「(真治さん)家族の成長と、思い出をどんどん積み重ねていきたいですね」

東北町 × 人
Interview

東北町で生きる

東北町の人たちは人とのつながりをとても大切にしている。

紡がれた絆の中で育まれる命、受け継ぐ誇り。

その笑顔は、つねに未来を向いている。



出荷作業も家族で。「両親や祖母とも小さい頃から手伝いしていたので、昔から生活の一部でしたね」

移住者 (Uターン)

関東での経験を
地元農業のために

乙部 暁さん

1987年、東北町生まれ。農家。三本木高校普通科卒業後、千葉大学園芸学部へ進学。最新の農業技術を学び、卒業後は教授の勧めで茨城県土浦市の農業改良普及センターへ勤務。関東の農業を目的の当たり前に、地元での農業に可能性を見いだす。現在は東北町にUターンし就農している



自慢のダイコンを収穫する暁さん。乙部家ではこの他に、ナガイモ、ゴボウ、キャベツ、ジャガイモを生産している

農業技術から農政まで
関東で積んだ大きな経験

全国的に見ても
若手農家が多い町

「若い農家の人は多いです。全国的に見てもダントツじゃないでしょうか。みんな専業でやっているから話も合うし、トラクターですれ違いざまに会話をするとか楽しみながらやっています」。乙部さんは若手農業者の交流を目的とした青森県4日クラブ連絡協議会にも参加。「肥料だったり畝の栽培方法だったり、勉強会を交えながら交流しています。若手農業者にとって東北町はかなり魅力的だと思いますし、全国から就農してみたいという人も受け入れやすい環境の町だと思います」。

「若い農家の人は多いです。全国的に見てもダントツじゃないでしょうか。みんな専業でやっているから話も合うし、トラクターですれ違いざまに会話をするとか楽しみながらやっています」。乙部さんは若手農業者の交流を目的とした青森県4日クラブ連絡協議会にも参加。「肥料だったり畝の栽培方法だったり、勉強会を交えながら交流しています。若手農業者にとって東北町はかなり魅力的だと思いますし、全国から就農してみたいという人も受け入れやすい環境の町だと思います」。



シジミ漁に欠かせない道具である鋤簾。常に水中での作業なのでメンテナンスも欠かせない

親子二代でシジミ漁に従事
受け継がれていく技術

漁も地域活動も仲間と共に
誇れるものにしていきたい

ツを着用し、水中を腰で曳くアヒルがある。駆け出しの頃はアヒルから修行し、今では船曳漁も一人でこなすまでに育った。「よほど湖が荒れない限りは漁に出ています」。操業時間内に定額である35キロのシジミが獲れたらその日は上がり。受け継いだ技術と定石に経験が積み重なり、自分自身のセオリーを円熟させていく日々を送っている。

「このあたりは年の近い仲間も多いです。上は45歳、下は22歳くらい。みんなもともと家がシジミ漁をやっていたという人が多いですね。漁師仲間と共に地区の青年部や町の青年協議会にも所属し、地域活動にも積極的に取り組む鶴ヶ崎さん。最後に自身で獲っているシジミについての思いを聞いた。「小川原湖のシジミは好きだし、誇らしいです。小さいサイズはあえて取っていないので、身も大きい自慢のシジミです」。

東北町 × 人

Interview

シジミ漁は誇り。
だから受け継いだ



漁業従事者

鶴ヶ崎泰幸さん

1984年、東北町生まれ。シジミ漁師。大学卒業後、父親からシジミ漁を継ぐ。風の向きや水の温度を肌で感じ漁に挑む姿は真剣そのもの。一方で鶴ヶ崎地区青年部、東北町青年協議会や町の柔道協会にも所属。休日に柔道の試合があれば引率するなど、地域との関わりも大切にしている。



「やませ」が吹けば風の当たらないポイントでシジミを獲るなど、受け継いだ技術や経験で漁の精度を上げている





♡ 教員

東北町には単身赴任中です。寂しさを感じないくらい住人の皆さんがいい人たちばかり。自然が豊かで食べ物も美味しい東北町が大好きです。



♡ 警察官

赴任したばかりなのですが、町の皆さんが気さくに声をかけてくれるのが嬉しいです。小川原湖産のシジミ汁は最高です！



♡ おじいちゃん

毎日町のバスで施設に来て、温泉に入っているよ。若い頃は東京で働いたけど、ここが一番だね。今日は写真も撮ってもらって最高に楽しいよ。



♡ 高校生

夏から秋にかけてお祭りが多くて、なかでも「日の本中央まつり」が好きです。大きなたいまつに火がついた様子や打ち上げ花火は迫力があります。



♡ 保育園児

公園で遊んだり絵を描いたりするのが大好き。保育園で好きな給食はたまご焼きとナスグラタン。大きくなったらサッカー選手になるんだ。



♡ 中学生

地域の皆さんが中学生の自分たちにも、とても優しい町だと思います。学校では生徒会長をしています。正直大変ですが、やりがいを感じています。



♡ 農業従事者

町には農業に就いている若い人たちが大勢いるのが嬉しい。月イチで開催している飲み会が楽しみで、情報交換といい息抜きの場になってます。



♡ 道の駅スタッフ

小川原湖には道の駅から歩いて行けます。好きなイベントは湖水まつりの花火大会。湖水浴の帰りに道の駅にぜひお立ち寄りください。



♡ 会社員

東北町はとにかくごはんが美味しい！行きつけの大好きなお店もできました。町のことももっともっと知りたいですね。



♡ 小学生

今から陸上の練習に行くところ。この前のわかさぎマラソンでは4位を取ったんだ。将来はお父さんの跡を継いで農業をやりたいです。



♡ 郵便局員

東北町と思ったら「ナガイモ」。梅味に漬けたナガイモの漬物が好物なんです。他にもニンニクや小女子の佃煮など美味しいものがたくさんあります。



♡ 小学生

東北町には温泉がいっぱいあって好きです。家族でもよく温泉に行きます。来年から中学生。中学ではバレーボールがやりたいです。



♡ 酪農従事者

酪農は自分で三代目。東北町は土地が豊富にあるし、国や県、町に農業の担い手への支援制度があるので、農業がしやすい環境だと思うよ。



♡ 水産加工業者

春は千本桜が見事だし、夏は花火大会もあるし、見どころも多い町ですね。小川原湖ではシジミ貝が年中獲れるからおみやげにもおすすめです。



♡ 漁業従事者

小川原湖で漁師をして、獲った魚で佃煮を作ります。今後もずっと漁ができるよう、小川原湖の豊かな自然環境を守っていききたいですね。



♡ おばあちゃん

東北町には温泉がいっぱいあっていいね。今日もバスに乗って温泉にきたの。81歳だけれど、毎日歩いているよ。元気の素だね。



♡ おかあさん

小川原湖で獲れた魚を使った佃煮がおみやげに喜ばれますよ。くるみちりめんやワカサギの佃煮は家でもよく食べます。おすすめです。



♡ 保育士

田んぼがいっぱいあって、カエルやトンボもいて、自然がたっぷり残っている町です。こういう所でのびのびと子育てができるのは良いですね。